

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年12月11日(土)

《正しく待ち望みましょう - 利己的な望みになっていませんか - 》

今日の福音(マタイ 17・10 13)を理解するためには、聖書に関する知識が必要です。

旧約時代から人々は、「いつか終末の時が来るが、その前には必ず預言者のエリヤが現れる。そしてエリヤが現れてからメシアが来られる。」と信じてきました。それがイスラエルの一つの信仰でした。だから彼らは、世の中が混乱し、いろいろ難しいことが起こると「終末が近づいているのではないか。まもなくエリヤが現れるのではないか。エリヤが現れればすぐにメシアが来て、私たちに救ってくださるだろう。」という夢のような希望を抱いて生きてきました。

今日の福音でも、弟子たちが「律法学者達は、必ずエリヤが現れると言うのですが、それはどういう意味でしょうか。」とイエス様に聞いていますね。律法学者達は、聖書の中でいつもイエス様から叱られています。しかしこの人達も自分たちなりに一生懸命に信仰の生活をしてきたのです。メシアを待っていたのです。神様のみ言葉を理解し、それを人々に述べ伝えようと、一生懸命に頑張ってきた人々です。ファリサイ派の人々も全く同じです。ただ問題は、エリヤが現れた時に気がつかなかった、ということです。気がつかなかただけでなく、殺してしまったのです。それは洗礼者ヨハネのことです。イエス様は、人々がエリヤに気がつかないこと、ご自分も苦しみを受けて殺されることをはっきりおっしゃいました。

こういう福音を読むときに私たちが考えなければならないことは、私たちもみ旨に囲まれている、ということです。いつも導かれているのに、それに気づいていないし悟っていないのです。つまり、律法学者のように、善いことを求めながら正反対の道を歩んでしまう危険性がある、ということです。

私たちもいろいろな夢を持っています。日本語に「待ち望む」という言葉がありますね。特に四旬節や待降節によく使われる言葉です。私たちが待ち望んでいるものは何でしょうか。それが正しいものかどうかは、利己的な考えからできたものかどうかを考えればすぐに分かります。その希望、その夢が利己的な考えによって作られたものならば、今日イエス様がおっしゃった律法学者たちの罪と同じ罪を犯す可能性が高くなります。私たちは、願っているのに叶えられない時、イエス様・神様に対して嫌な気持ちを持ちやすくなります。しかし、叶えられなかった時にはまず、自分を振り返ってみてください。今まで望んできたものが本当にみ旨にふさわしいものなのか考えてみれば、自分の間違いが必ずはっきり見られます。“神様はいつも一番正しい道を歩ませようとしているのに、私がそれを忘れていた”と気づくでしょう。

皆様、これからも待ち望むことはたくさんあると思います。その時、利己的な考えから生じた希望でないか、きちんと考えてみてください。そして、そこから本当に望むべきものを考えれば、歩むべき道が見つかると思います。

今日の福音は、結構意味のある箇所だと思います。律法学者は、先ずエリヤが来るはずだと言っています。それは、彼らも私たちと同じように待ち望んでいたということです。しかし正しく待ち望まなかったのです。正しいことを希望しないことは、ただの間違えでなく、神様を殺してしまう罪に至るかもしれません。そのような危険があることを意識するべきでしょう。

私たちは、そういう意味で、できるだけ耳を傾け、自分にとって何が本当によいものか、利益になるものなのかをよく考える必要があります。

ありがとうございました。